

## レコード盤の洗浄方法

この事例は、直接レーザーターンテーブルを使用するものではありませんが、レコード盤の洗浄方法の習得はレーザーターンテーブルを使用する上では欠かせないものです。

また、これを習得すれば、針式のターンテーブルでも今まで以上に良い音を楽しむことができます。

レコード盤に記録された録音当時の音を精確且つ精緻に再生してくれるレーザーターンテーブルですが、全く弱点が無いわけではありません。完全無欠はこの世の中には存在しないのです。その弱点、と云っても製品の特徴でもありますが、を挙げてみると……

- 一 黒色盤以外は再生できない
  - ・カラーレコード（赤、青、白など）
  - ・ピックアップレコード
  - ・ラッカー盤など

二 埃までもノイズとして再生してしまう

これらは、ピックアップにレーザー光を用いることに起因するもので、基本的には

レーザー光の持つ特徴といえます。

例えば一ですが、盤が黒色以外だとレ

ザー光は反射しないで透過してしまうため、受光素子に音溝の音情報が返ってきません。

二の場合、音溝に残留する微小な塵や埃

りは、目には見えない程のでも、レーザー光がその上をスキャンして音情報として受光素子に伝えるために、再生時にノイズとして聴こえてしまいます。いや、塵埃が黒色でなければレーザー光は透過して問題ないだろう、と思われるかも知れませんが、でも、塵埃を透過する際にレーザー光が拡散してしまい、本来の音情報に悪影響を及ぼし、ノイズとして返ってくる、と云うことは考えられます。

一に関しては一般ユーザーである私達にはどうすることもできません。

例えば、透明な盤でも反射が確実に得られるレーザー光が今後発明或いは発見されれば別ですが、現状では叶えられそうにはありません。云ってしまえば、無い物ねだりの部類です。

他方、二に関しては、完全無欠とまでは行かないまでも、我々でも対処することができます。

「家で聴いてた時にはこんなにノイズは無かったよ」

レーザーターンテーブルで愛聴盤を聴かれた方の多くが漏らす言葉にこんなものがあります。

「ちゃんとスプレー使ってるし、クリーナーもベルベット布のを使ってるし、家のシステムでこんなノイズ聴いた事が無い」

異口同音にそうおっしゃいます。これが嘘ではないことは自身の経験でも明らかなので、否定することはありません。ピックアップの違ひとはそういうことだと説明することにはしています。

皆さんはラッセル車をご存知だと思えます。ラッセルというのは『登山で、深い雪をほらいのけ、道を開き進むこと』と辞書スーパー大辞林の版々にあります。

ピックアップが針の場合、針が盤面と接触している為このラッセルが起こります。つまり、目に見えない塵や埃を払いのけ音溝を進んでいくのです。その証拠に、針のピックアップには針先清掃のための小さなブラシが付属しているものです。

針には質量があり、また音溝を確実になぞる為にピックアップに重さを付加します。

針圧と呼ばれるものです。この為、針の場合レコード盤面には相当の重さが加わっています。その結果、針や盤が摩耗するともに塵や埃を掻き出すことも起こります。但し、こうした塵や埃は極く微小ですから、針の振動には通常ほとんど影響を与えません。針先に余程付着した状態になればノイズとして気づくこととなりますが。

レーザーターントーブルではピックアップはレコード盤と接触していません。従って、物理的に音溝の塵や埃を掻き出すことができません。ラッセルは効かないのです。レーザー光は塵や埃の上を透過し黒色の盤面で反射します。この時に音情報に濁りが生ずるのです。その結果がノイズとして再生されてしまいます。これは単純に再生精度が高いということではありません。

ではどうすれば良いのかですが、その前に何がよくないかについて私見を少し：：：一言で云ってしまえば「レコード盤を甘やかすな」です。具体的にはこんなことに気をつけてください。

一 レコードスプレーは使わない

- 二 内袋（レコード盤を直接入れる袋）は消耗品
  - 三 ビニール製の内袋は使わない
  - 四 外袋（ジャケットごと入れる袋）は蓋のできるものを
  - 五 ベルベットで撫でるのは気休め
- 結構過激な言葉が並んでいますね。これは皆「レコード盤を甘やかすな」に通じます。基本的には工業製品であるレコード盤は、これまで異常に過保護に扱われてきたというのが、私の考えです。どれも俄には信じ難いことばかりだと思えますので、より具体的に説明したいと思えます。
- 一 レコードスプレーは使わない
- 若い頃は使っていました。現在では全く使いません。理由はその成分が信用できないからです。代わりに水と（株）エルプのアナデジ・クリナ洗浄液を使います。基本的に液体のものを使っています。
- 若い頃レコードスプレーを使っていたのは「これって音溝まで浸透するの？」と云うことでした。それと吐出された液

- が盤面にすぐには広がらないことに違和感を覚えたのです。すぐにベルベット製のクリナーで拭き取ってしまうのだから、なんか効果に期待できない感が大きかった。
- この処レコード盤を寄贈されることが多くなり、一枚一枚丁寧にクリーニングするのですが、そこで気づいたのは、丁寧に扱われたと思われるレコード盤ほど状態が良くないのです。どうもその原因がレコードスプレーにあるような気がしてきました。レコードスプレーには粘性の素材が混ぜられている気がしてならないのです。
- こうした寄贈盤というのは三十年以上も前の盤が多く、盤の表面にはカビや斑な汚れが残っていることが多いのです。その原因がどうもレコードスプレーにある気がしてなりません。これは経年変化を目の当たりにしないと理解できないかも知れません。
- 二 内袋は消耗品
  - 三 ビニール製の内袋は使わない
- これも経年変化を目の当たりにしないとすぐには理解できないことでしょう。
- 内袋はレコード盤以上に劣化が早いものです。できればこれからはレコード盤を購入

したらずぐに紙製の内袋に交換していただきたいものです。

ビニールというのは見栄えは良いですが、化学製品ゆえ年を経るとレコード盤との間で化学変化が起きるらしいのです。時々盤と内袋が接着したようなものと出合います。

理由は不明ですが、国内外のビートルズの盤の内袋は全て紙です。紙は密封性は良くありませんが吸湿性があります。そのため、適度な湿度調整がされ、また化学変化も少なく、経験上紙の内袋の盤は状態が良いものが多いのです。最近では内袋の紙製品も増えているので、手持ちの盤のメンテナンスを内袋の交換から始めてみては如何でしょうか。

#### 四 外袋は蓋のできるものを

単純に云えば、レコードジャケットと同サイズで、蓋ができないものは避けた方が良いでしょう。開放辺がジャケットサイズより高く、折り返して蓋ができる方が埃などの進入を防げるのでお勧めです。私は全てこのタイプの外袋に取り換えています。

【洗浄方法】  
但し、蓋部分に糊がついているものはお勧めしません。理由は、誤って糊の面にジャケットやライナーノーツを置いてしまい、剥

がすのに苦勞した経験によりります。

#### 五 ベルベットで撫でるのは気休め

これは文字通りです。盤面をベルベット製のクリーナーなどで撫でると確かに綺麗になります。でも綺麗になるのは盤面だけです。音溝まで綺麗になっていくのは甚だ疑問です。これはレーザーターントーブルで試聴すればすぐに判ります。

レコード盤は音溝で成り立っています。ベルベットというくらいですから凹んでいます。ベットの毛足の長さや腰の強さで、音溝に入り込んだ塵や埃が本当に掻き出せるのかは、疑問です。とは云え、これもレーザーターントーブルで試聴して判ること、針で聴いている限り苦にはなりません。

ではどうするかですが、お勧めなのは歯ブラシで盤面を音溝に沿ってゴシゴシしてやることです。中でも「豚毛の歯ブラシ」がお勧めです。

基本的には腰のあるブラシを使うことです。最近ではレコード盤専用のクリーニングブラシも幾つか発売されていますので、それらを利用するのも手です。但し、専用のものはそれなりにお値段もしますのでお忘れな

く。また、歯ブラシなどを使用する際は自己責任でお願いします。

前述の通り、レーザーターントーブルは微小の塵や埃に極めて弱い、というか、それらまで音として再生してしまうほど再現度が高いので、その特徴を利用して、レーザーターントーブル向けに洗浄処理を施せば、針のピックアップでの再生音も以前よりも良くなるのは当然のことなのです。

今振り返ると、1980年代初頭までの、アナログオーディオ全盛時のレコード盤メンテナンスに対する考え方は、レコード盤を過保護に扱う「甘やかしすぎ」のメンテナンスだったといえます。

レコード盤で一番汚れ、カビの原因となるものを保持しそうな場所はどこだと思えますか？

この問いに素早く確実に応えられた方は、日頃から意識してレコード盤と格闘している方だといえます。

実はレコード盤で一番汚れていて、ほとんどメンテナンスされていない場所は、エッジ、円周部分なのです。これはここ三年間で

四百枚以上の寄贈レコード盤を扱った経験での結論です。一見盤面が綺麗で汚れの少ないと思われる盤でも、エッジ、円周を水分を含んだ布で拭いてみると、その汚れで布が黒くなるものです。

これはよく考えれば当然で、レコード盤をターンテーブルにのせる時も、外す時も、内袋に入れる時も出す時も、盤のエッジ、円周には必ず触れます。盤面には絶対に触れないのに、です。処が、盤面はクリーニングするのに、エッジ、円周をクリーニングする人はまず居ません。その結果、エッジ、円周にカビの原因となるものを付着させたまま、通気性の悪いビニール製内袋に入れて保管することになります。これが長い間にカビを発生させたり、盤面に斑まだらの汚れを生じさせたりするので。

今私は「レコード盤アーキヴィスト」と自称して、多くの方々から寄贈されるレコード盤の再生・保存・管理をライフワークとしています。そんな活動の一つとして、『レコード盤を洗ってみよう』という体験講座を開催しています。(詳細は「<http://iwamura55.com/experience/>レコード盤を洗ってみよう」で。)

その講座では、今までに寄贈された数多くの古いレコード盤を、レーザーターンテーブルを使ったレコード盤のデジタル・アーカイブにも使えるように再生する方法の幾つかを、参加者自ら体験して貰もらえるようにしています。また、この講座で使用す道具は、誰でも入手可能で、価格も手頃なものを紹介しています。

ここからはこの体験講座でお伝えしていることを中心に、私のやっていることを紹介していきます。

一言で云えば『レコード盤を洗う』です。まずその手順を大まかに示してみます。

- ①レコード盤をジャケットから取り出す
- ②レコード盤に霧吹ききりふきで水をかける
- ③バキュームクリーナーで盤面の水滴を丁寧に吸い取る
- ④レコード盤に再度霧吹きで水をかける
- ⑤再度バキュームで水滴を吸い取る
- ⑥柔らかい布で盤面を溝に沿って丁寧に水をふき取る
- ⑦盤を裏返し②から⑥を繰り返す
- ⑧⑦が済んだらレーザーターンテーブルで試聴

⑧で一旦試聴するのは、前段階で汚れが、どの程度落ちたのかを確認し、この後の洗浄をどの程度するのかを決める為です。ここまですべて使用した道具は、レコード洗浄専用のもではありません。水滴を吸い込むバキュームも一般的なホームセンターや家庭にあるもので代用できます。

①から⑧が洗浄の準備段階で、これを終えたら本格的な洗浄を行います。ただこの先の洗浄は、私の拙つたない表現で伝えるには少し大

## おんさいと “音齋処” レコード盤三原則

古いレコード盤は  
「世界と個人の文化遺産です」・「捨てないで」・「再生しましょう」

“音齋処” 三つの “再生”

recycle	リサイクル	たくして
rebirth	リバース	みがいて
replay	リプレイ	音がでる



変ですが、雰囲気だけでも感じ取っていただけ  
ければと思います。

ここからは、準備段階とは違い、レコー  
ド洗浄専用の道具も使います。

まず道具の紹介から……。

## 一 専用バキュームクリーナー

## 二 精製水

## 三 霧吹き

## 四 クリーニング用ブラシ

## 五 専用クリーニング液

ざっとこんな感じですよ。一から五までの  
道具を一挙に揃えると十万円超となります。

ではこれらの道具を、どの順番で、どう  
使っていくかを説明していきます。

①レコード盤を専用バキュームクリーナーの  
ターンテーブルにのせる

②ターンテーブルを回転させ、霧吹きに入れ  
た精製水を盤面全体に吹きかける

③ターンテーブルを回転させたまま、クリー  
ニング用ブラシを使って、盤面の水滴を延  
ばしながら音溝から掻き出すようにする、

この時ブラシに力を入れ盤面に押し付ける  
ようにする

④③の作業をレコード盤の外周から内周に迄  
行ったら、専用バキュームクリーナーのバ  
キュームスイッチを入れて、盤面の水滴を  
完全に吸い込む

⑤盤面を入れ替えて②から④の作業を繰り返  
す

⑥再度盤面を入れ替えて、ターンテーブルを  
停止させたまま、専用クリーニング液を盤  
面に足らしていく この時に肝心なのは、  
クリーニング液をけちらないこと 多  
すぎると思うくらいが丁度良いです

⑦クリーニング液をブラシで丁寧に盤面全体  
に延ばしていく、ここでは余力を入れな  
いで、液が盤面全体に行き渡り、音溝に液  
が浸透するように丁寧にすること

⑧クリーニング液が盤面全体に行き渡った  
ら、次にブラシで液面に泡が出る位の強さ  
で音溝に沿ってゴシゴシとしていきます、

この時、盤の四分の一位を目安にターン  
テーブルを回したり止めたりしながら作業  
をします

⑨⑧で盤が一周したら、ターンテーブルを  
回し、バキュームを開始し、完全に洗浄液

を吸い取ります 盤面が乾いた色になっ  
たら終了です

⑩これで片面の洗浄が終わりました この後  
すぐに試聴なりデジタイズをするなら、も  
う片面はそのままにします 試聴やデジ  
タイズが終わったら残りの面を⑦⑧⑨の手順  
で洗浄します

さて如何でしたでしょうか？お判りいた  
だけたでしょうか？

実際には、場面場面でゴシゴシの回数や、  
ゴシゴシに使うブラシを取り換えながら行  
うのですが、それは経験を積み重ねて自分なり  
の仕上がりを持つ以外にはありません。

ポイントとしては、レコード盤はビニ  
ル樹脂でできた工業生産物ですから、それ  
を見合う扱いが必要だということです。つま  
り過保護は禁物……撫でてるだけでは汚れは  
落ちません。

工業製品ということに関して今一つ……

一般的な理解として新品で未開封のレコー  
ド盤は綺麗で、こうした洗浄は不必要と思わ  
れがちですが、あくまでもレコード盤は工業製  
品、それをつくる工場の環境は、半導体ウエ  
ハーを製造する無塵環境とは違います。従っ

て細かい塵や埃、時として原料であるビニールの屑くずなどが音溝かに隠かくれています。それ故に新品未開封のレコード盤であっても、洗淨することを勧めします。

さて最後に、レコード盤の扱い方（作法）に関する都市伝説のようなことを紹介してきます。所謂常識いわゆるというヤツですが、古いレコード盤の洗淨をするに従って、こうした嘗かつての常識にも、私自身は疑問を持つようになりました。

一 レコード盤にアルコールは大敵、ビニールが溶ける　　実際にやってみれば判りますが、アルコールを少量かけたぐらいではレコード盤は溶けたりはしません。但し、レコード洗淨剤として使うアルコールは必ず『無水アルコール』『無水エタノール』と表示されたものを使います。消毒用アルコールや消毒用のエタノールは、精製水で希釈されているので、洗淨には不向きです。

また、無水アルコールを使うのは汚れがひどい時にしてください。こればかり使っているのは、やはり良くありません。

レコード盤が溶ける前に手があれてしまいません。

二 静電気をとる為に静電防止スプレーを使う　　これも、スプレーの成分が何なのかよく解らないので避けた方が良いでしょう。静電気を除去する一番確実な方法は、自分自身が痛い思いをする、つまり自身のアースになることです。洗淨でゴシゴシやった後にバキュームで吸水したりして、盤に静電気が溜たまったと思えば、片手で盤に軽く触れて、もう片手で近くにある木や金属を触りアースすることです。

それと静電気に関してはこんなことがあります。それは、静電気を発生しやすい盤とそうでない盤がある、ということですが、しかも、その盤の違いは外見や重さなどでは解らないということです。つまり、帯電しやすい盤は決まっているけれど、容易には判らないということです。それ故、先ほど延べた自分自身をアースにする方法が一番確実なのです。

三 レーベル面に水をかけたら剥はがれてしまう　　これもやってみれば判ることですが、今までレコード盤を洗淨するという考え方がなかったので、都市伝説として語り

継がれているものです。

レコード盤のプレス行程を知っていれば判ることですが、レーベルはレコードと一体化たしていて、プレスに堪たえる紙質を持っています。従って、始終レーベル面に水をかけゴシゴシ擦こすらない限り剥がれたりはしません。水分がついても柔らかい布で優しく拭いてやれば、多少の色移りがあるものの、殆ど影響はありません。逆に、レーベル面も洗淨しないと、後々カビや汚れの原因となるものを残すことになりす。

四 レコード盤面を触ると、指紋や指脂が残る　　これもやってみれば直ぐに判ることですが、余程汗よほどばんだ手でない限り、簡単に指紋が移ったり、指脂しじが残ったりはしません。とは云っても、盤面を積極的に素手で扱うことを勧めはしません。一連の作業をする時には、使い捨てのゴム手袋を利用してください。

■ おしまい ■

“音齋処” 横田 文孝

2018年5月23日（水）